

# もぐさレポート

## 統合報告書 2024





# 目次

## 1. イントロダクション

1.1 理事長あいさつ	3
1.2 百草台学園の理念	4
1.3 学園の沿革	5
1.4 百草台幼稚園について	6

## 2. 学園が提供する価値

2.1 学園の価値創造の方法	9
2.2 学園の未来に向けて	11
2.3 学園が対処すべき重要課題	12
2.4 マテリアリティ（重要な課題）	13

## 3. 学園の運営基盤

3.1 設備資本	17
3.2 人的資本	19
3.3 知的資本	21
3.4 自然資本	23
3.5 社会・関係資本	24
3.6 財務資本	25
3.7 ガバナンス	26
3.8 コンプライアンス	27

## 4. 百草台幼稚園について

4.1 園情報	29
4.2 あとがき	30



## 1. イントロダクション

1.1	理事長あいさつ	3
1.2	百草台学園の理念	4
1.3	学園の沿革	5
1.4	百草台幼稚園について	6

# 理事長あいさつ

学校法人 百草台学園 理事長  
小宮山 直樹

## 幼児教育を通し、和を創る

学校法人「百草台学園」の設立には、百草団地の一角に幼稚園用地が確保されたことを知り、幼稚園の開園に向けて多くの協力者と障害を乗り越えながら、百草台幼稚園の開園に奔走した石坂勝雄（初代理事長）の思いが強く込められています。

団地にできる幼稚園を、新しい団地の住民と地元の住民との交流の場としていきたい。そして、両者の理解と協力によって日野市を発展させていくことが大切であり、そのための人づくりをしていく。百草台幼稚園が1970年に開園された当初から、「地域に根ざした教育機関」として果たしてきた役割は、50年以上経った今でも変わりはありません。

ただし、子どもを取り巻く家庭環境や社会は開園当初から少しずつ変化し、その結果として社会全体も様変わりしました。少子化や待機児童の問題、共働き世帯の増加や働き方の変化、そして社会のデジタル化などです。

当園は、それら社会全体の変化への対応としっかりと向き合うために、教育の質を向上させながらも、子ども、保護者、教職員、地域社会などのステークホルダー（幅広い関係者）の課題解決に対して、「幼稚園として、できることは何か」、「百草台幼稚園だからこそ、できることは何か」と長く思いを巡らせてきました。その答えの1つが、2019年に認定こども園の認可を受けることでした。

認定こども園 百草台幼稚園として、学校である幼稚園の教育を主体としながらも、保育所の良い面である長時間の保育・預かり機能を併せ持った施設となりました。そのため、子どもたちは保護者の働き方や家庭の都合で退園することなく、一貫した教育・保育を卒業まで受けることができます。当園のこれまで培ってきた特色のある独自のカリキュラムを、地域の希望するすべての家庭に提供する道が開けました。待機児童の解消、預かり保育の充実による子育て支援について、微力ながら貢献できたと感じております。また、長時間の保育により開園時間が長くなったことで、業務効率化の推進と教職員の働き方を見直す良い機会にもなりました。

近年では、2歳児の一時預かりや小学生への学童保育に取り組み始めました。保育の「多機能化」の推進です。これからも必要とする家庭（子ども・保護者）に希望する教育・保育を提供していきたいと思います。私自身もこの幼稚園の卒業生であり、現在は教職員として働いています。私自身にとって大切な場所であったように、皆様のお子さまにとっても大切な幼児期を過ごす笑顔にあふれる幼稚園となれるよう、教職員と共に尽力して参ります。

このもぐさレポートは、2024年度に理事長を交代したことを機に、学園として今まで大事にしてきた思いや教育・保育への取り組みをまとめ、園の将来構想を検討した結果を反映させて作成しました。教職員や保護者、さらにはこれをお読みの幅広い関係者の皆様との間で議論するための一助となることを望んでいます。関係者のお力添えをお願い申し上げます。



# 百草台学園の理念

好きな遊び・人・物との出会いが、子どもたちと地域の輝かしい未来へとつながる、きっかけを創ります。百草台学園は、設置者の「理念」やこれまで携わってきた教職員の「思い」を受け継ぎ、大切にしてきました。将来にわたって、その「思い」をすべての教職員が深く理解し伝えていくため、「学園の理念」を体系的に以下のようにまとめました。

## Mission 学園の理念、果たす役割

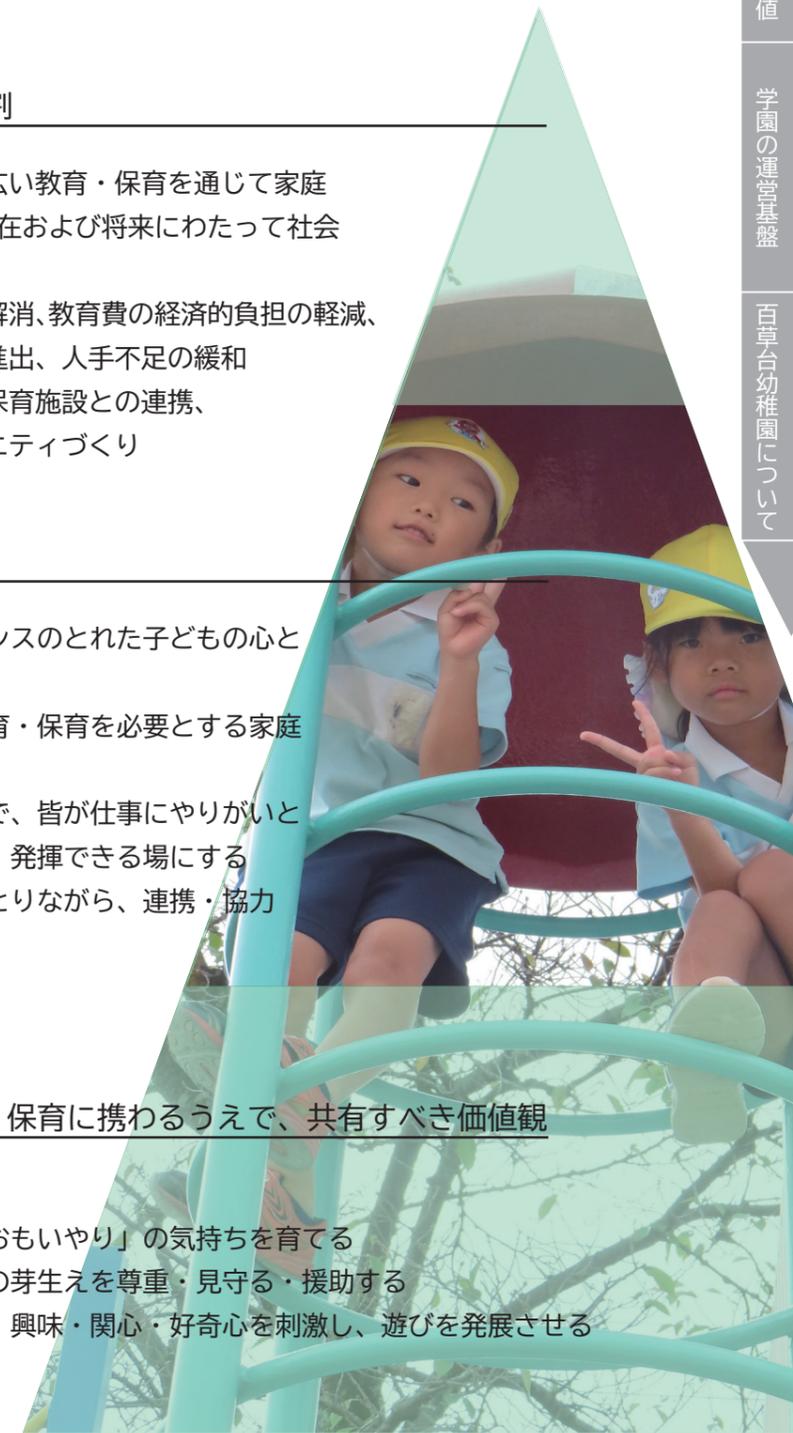
- ◆「地域に根ざした教育機関」として、幅広い教育・保育を通じて家庭（子ども・保護者）とわが地域を支え、現在および将来にわたって社会に貢献する
- ◆現在貢献できていること …待機児童の解消、教育費の経済的負担の軽減、女性の社会進出、人手不足の緩和
- ◆今後貢献していきたいこと…他の教育・保育施設との連携、地域コミュニティづくり

## Vision 長期的に目指す姿

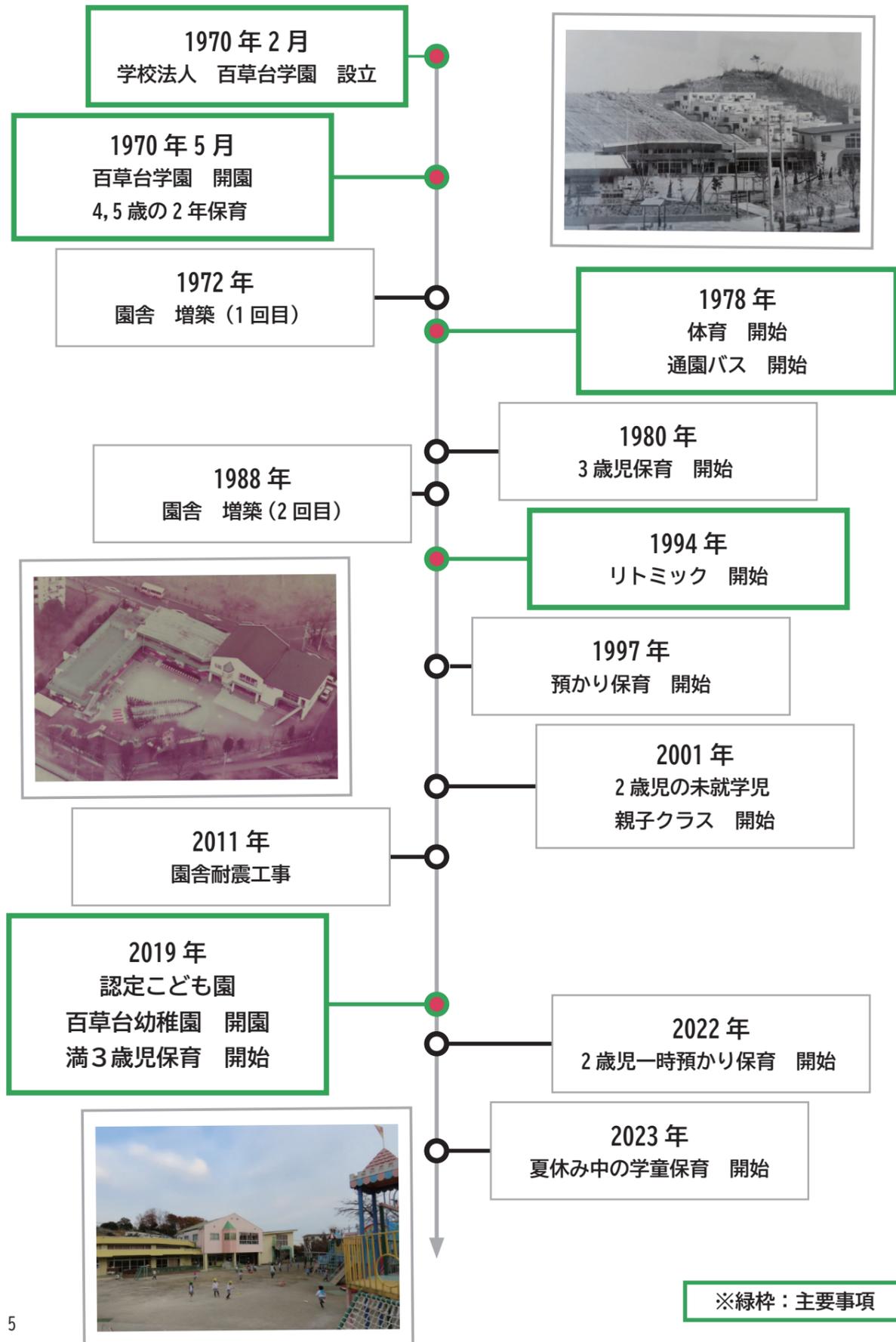
- ◆幼稚園と地域社会のなかで、豊かでバランスのとれた子どもの心と身体を育てる
- ◆安心・安全な環境で、一貫した独自の教育・保育を必要とする家庭（子ども・保護者）に提供する
- ◆働き方の異なる幅広い教職員がいるなかで、皆が仕事にやりがいと誇りを感じ、お互いの良さや能力を認め、発揮できる場にする
- ◆園に携わる幅広い関係者間のバランスをとりながら、連携・協力できる関係を構築する

## Value すべての教職員が教育・保育に携わるうえで、共有すべき価値観

- ◆遊びを通して学ぶ
- ◆心と身体の成長の基礎となる「がまんとおもいやり」の気持ちを育てる
- ◆子どもの個性を大切に、成長するための芽生えを尊重・見守る・援助する
- ◆学年や一人ひとりの発達段階に合わせて、興味・関心・好奇心を刺激し、遊びを発展させる



# 学園の沿革



# 百草台幼稚園について

百草台幼稚園は、幼稚園の教育と保育園の保育の両方の良さを兼ね備えた学校法人の幼稚園型認定こども園です。自然に囲まれ広々とした園庭と充実した設備。その中で、子どもたちが生き生きと遊び学び合いながら成長していく姿を捉え、見守っていきます。1人1人の個性を大切に伸ばし、子どもが子どもらしく育っていく事を念頭に、教育を進めていきます。またそれと同時に、認定こども園として、11時間の開園で長時間保育が必要な子どもたちの受け入れも行えるようにしています。豊かでバランスのとれた心と身体を育てていくことが本園の大きなねらいです。

## 利用定員

年齢区分	0歳児	1歳児	満3歳児 (2歳児)	3歳児	4歳児	5歳児	合計
1号			20名	34名	33名	33名	120名
2号				6名	7名	7名	20名
合計			20名	40名	40名	40名	140名

## 利用料等

	1号児	2号児	支払時期
月額保育料	無償化のため 0円		
入園準備金	20,000円	20,000円	入園時
受験料	2,000円	2,000円	入園時
施設充実費	1,800円	1,800円	月額
給食費	※ 3,700円	※ 3,700円	月額
施設設備費(バス代)	3,300円	3,300円	月額(利用者のみ)
特定保育料	500円	500円	月額
教材費	500円	500円	月額
預かり保育料	7:30~7:59 150円	短時間利用者のみ	月締めの翌月払い
延長保育料	8:00~8:59 150円	7:30~7:59 150円	
(保育がある日)	14:51~16:00 200円	16:01~17:00 200円	
	~17:00 400円	~18:00 400円	
	~18:00 600円	~18:30 600円	
預かり料(長期休暇中)	1時間 200円		月締めの翌月払い

※ 2025年度より、値上げする予定です

## 補助金を差し引いた後の負担額

	満3歳児	3歳児~5歳児	
	1号児	1号児	2号児
入園準備金		10,000円	
受験料		2,000円	
施設充実費	0円	0円	1800円
給食代	—	(副食費免除者) 400円 (通常者) 3,700円	(副食費免除者) 400円 (通常者) 3,700円
施設設備費(バス代)	(利用者も無料) —	(利用者のみ徴収) 3,300円	(利用者のみ徴収) 3,300円
特定保育料	0円	0円	500円
教材費	500円	500円	500円

\* 2号児は、施設充実費と特定保育料に対する保護者補助金はありません。ただし、行事の振替日など、2号児のみ預かり保育を行う日があります。また、長期休み中も認定を受けた時間帯の預かり保育料はかかりません。

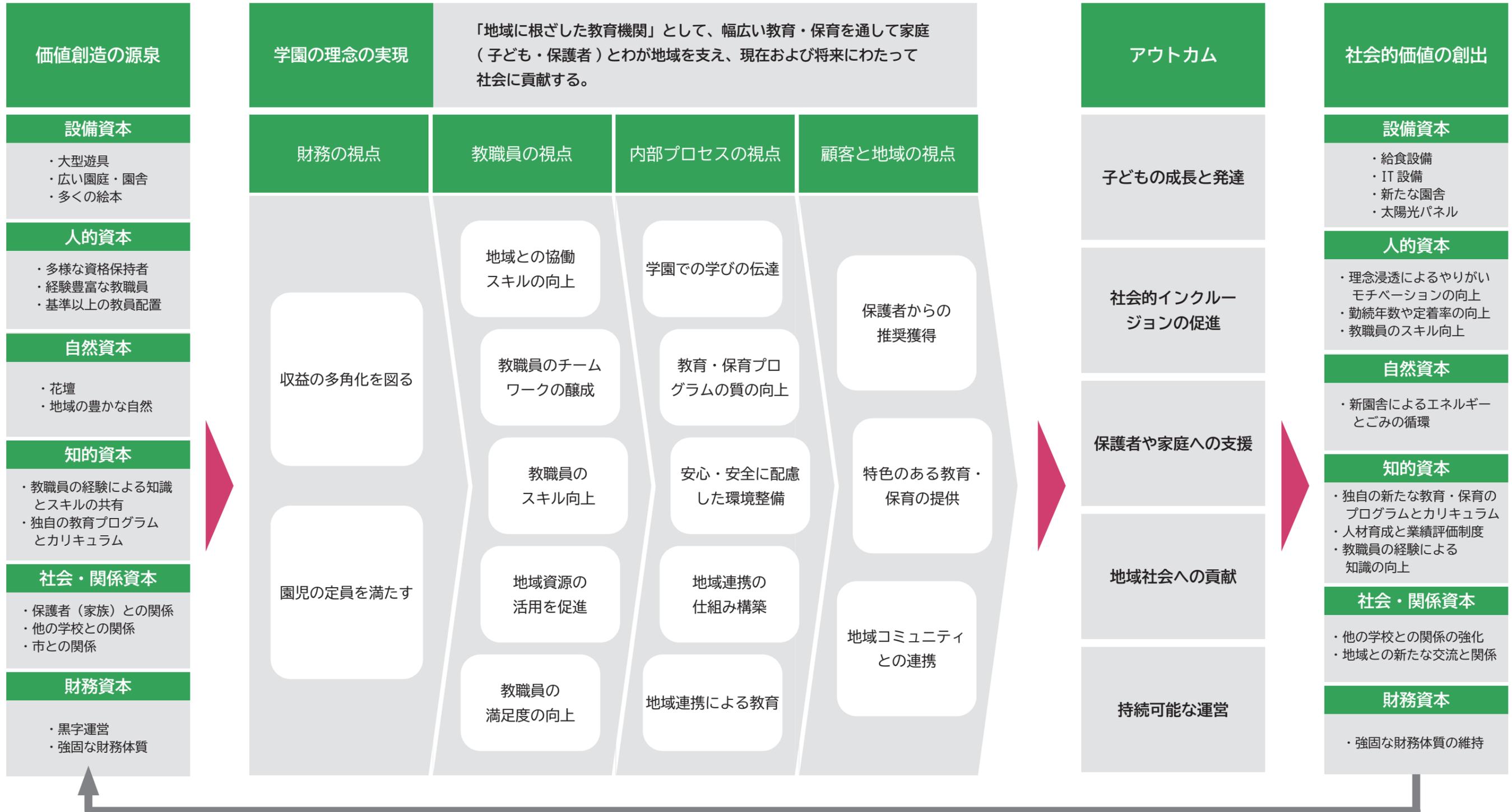
## 2. 学園が提供する価値

2.1 学園の価値創造の方法	9
2.2 学園の未来に向けて	11
2.3 学園が対処すべき重要課題	12
2.4 マテリアリティ（重要な課題）	13

# 学園の価値創造の方法

学園の理念への実現に向けて、重要な目標を4つのカテゴリーに別けて因果関係を明らかにしました。教育・保育の担い手である教職員に関連する投資、園舎の部分的な建替えを行うことで、6つの資本ごとに新たな価値を創出していきます。多くの関係者への価値創出が、強固な財務体質への好循環となるように推進していきます。

## 2028年度に向けた価値創造プロセス



## 学園の未来に向けて

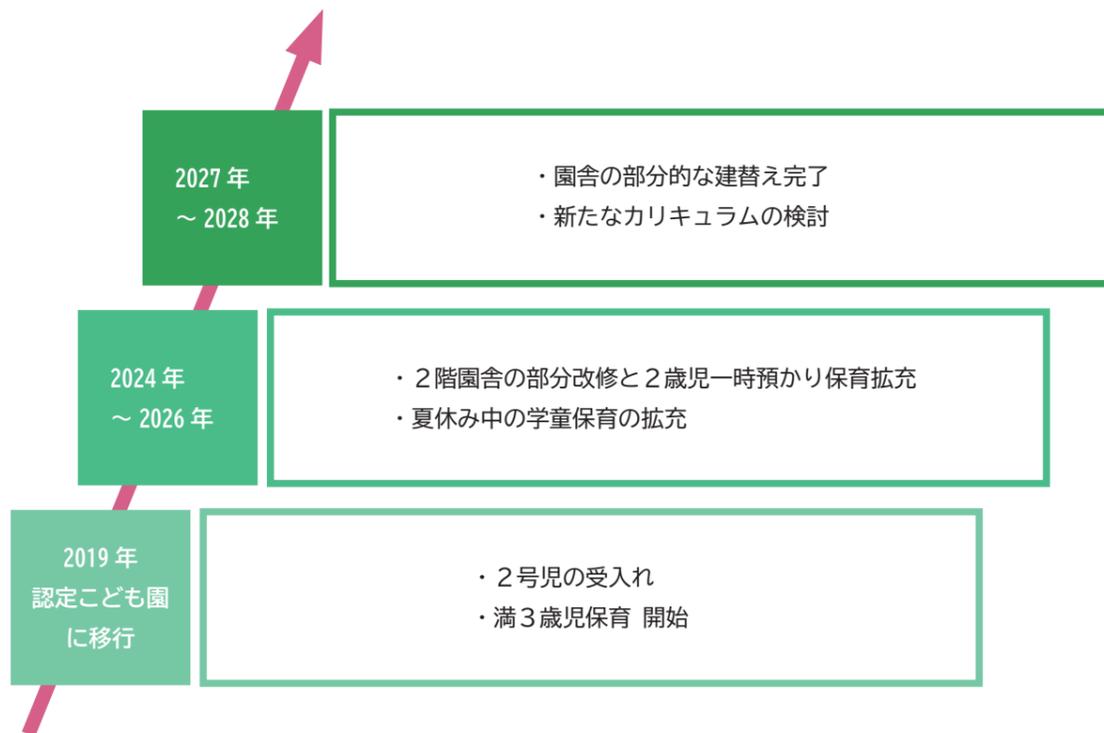
1970年に設立後、2回の増築を行いました。2階に広い保育室、浴槽・シャワー室、多目的室といった設備資本を充実させてきました。広い保育室は5歳児の日常の遊びの幅を広げるだけでなく、学年全体で活動する際に利用されています。また、浴槽・シャワー室があることで、園内でお泊り保育が行えるようにもなりました。多目的室は、集中して活動する場としてふさわしく、認定こども園に移行してからは午睡の部屋や保護者の集まりである父母の会の活動場所としても活用されています。

歴代の理事長の将来を見据えた的確な判断と、今まで在籍されてきた教職員が培ってきたカリキュラムが、現在の学園の土台となっています。受け入れる園児の年齢・地域を広げたことで、卒業生は4200人以上となりました。しかしながら、近年では少子化の影響もあり前年度の園児数を維持することさえ厳しい状況が続いています。そのため、現在の施設や人材を活かすべく、今後は学園の敷地内で幅広い年齢の子どもたち（未就園児～小学生）に、教育・保育・学童保育といった「多機能化」をより進めていきます。「必要とする家庭に希望する教育・保育・学童保育を届ける」ことで地域に根ざした教育機関として今まで以上に貢献していくためです。

そして現在では、「必要とする家庭に希望する教育・保育・学童保育を届ける」ことで地域に根ざした教育機関となっていくため、そして学園がこれから対処すべき重要課題を克服していくためには、以下の3つの側面から今後を展望する時期にきているのではないかと感じています。

- ① カリキュラム（どの部分を残し、またどの部分を見直すのか）
- ② 園舎・設備（カリキュラムを活かした園舎とは、これから必要とされる施設とは何か）
- ③ 教職員（どのような知識やスキルが求められているのか）

園児数が多い園を目指すのではなく、幼児のみが対象であった園から、1歳・2歳児から小学生や地域の方々までが集えて交流できる園になりたいと考えております。

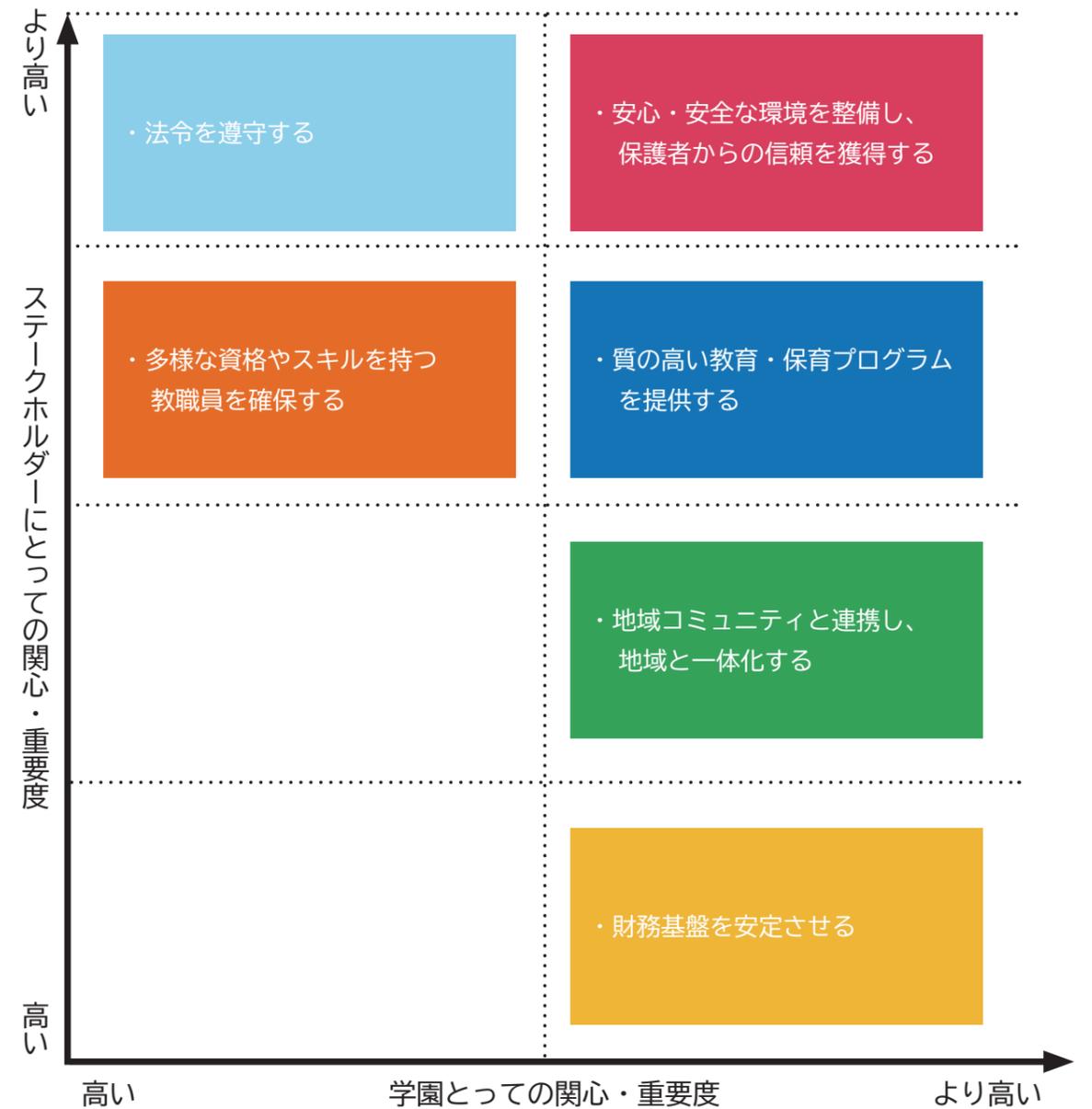


## 学園が対処すべき重要課題

### マテリアリティの特定プロセス

子どもに関する課題が、社会全体に与える影響度は増加の一途を辿っています。また同時に、社会全体の課題が家庭全体に重くのしかかっています。そのため、政治・経済・社会・技術革新などの観点から、現在および将来にわたって重要な課題（マテリアリティ）を多面的に抽出し、本学園が置かれている状況や内部環境を整理しました。そして、それらの重要な課題（マテリアリティ）が、本学園と幅広い関係者（ステークホルダー）の双方にとっての重要度合いを分析・評価し、幅広い教育・保育を通じて社会貢献していくという学園の理念に照らし合わせて、優先順位を判断しました。

### マテリアリティ・マトリックス



# マテリアリティ（重要な課題）

マテリアリティ	戦略上重要な目標	KPI（重要業績指標）
安心・安全な環境を整備し、保護者からの信頼を獲得する	保護者からの推奨獲得	・ NPS( ネットプロモータースコア ) ※ NPS とは、製品やサービスに対する顧客ロイヤルティを測る指標のことです。
	学園での学びの伝達	・ 情報発信の回数（ブログ、手紙、SNS）
	安心・安全に配慮した環境整備	・ 修繕が必要な設備への翌日までの初期対応率
質の高い教育・保育プログラムを提供する	特色のある教育・保育の提供	・ リトミック及び体育の実施回数
	教育・保育プログラムの質の向上	・ 外部講師との提携数 ・ 保育室へのネットワーク ・ IT 機器の整備割合
	地域連携による教育	・ 地域事業（園庭開放・1歳児リトミック）の回数
	教職員のスキル向上	・ 業務に関連のある免許・資格の保有者数 ・ 正規教職員の在職年数と外部研修への参加率
	教職員のチームワークの醸成	・ ミッション、ビジョン、バリューの浸透度合い
	教職員の満足度の向上	・ 教職員満足度
地域コミュニティと連携し、地域と一体化する	地域コミュニティとの連携	・ 2号児の充足率 ・ 地域事業の参加人数
	地域連携の仕組み構築	・ 保育園との提携数 ・ 日野市からのカウンセラーの派遣回数
	地域との協働スキルの向上	・ 市内の協議会・研修会への参加回数
	地域資源の活用を促進	・ 実習生とボランティアの受入れ人数 ・ 公共施設等の外部施設の訪問・利用回数
財務基盤を安定させる	収益の多角化	・ 収益の多角化の増加率
	園児の定員充足	・ 未就園児クラスの人数 ・ 満3歳児の充足率

本園では、SDGs（持続可能な開発目標）を幼児教育・保育の視点から捉え、積極的に取り組んでいます。幼児期の学びは将来の人格形成や社会貢献へと繋がるものであり、持続可能な社会の実現に向けて重要な意義を持ちます。本報告書では、学園の重要課題（マテリアリティ）とSDGsの関連性を明確にすることで、経営方針や教育活動が持続可能な社会の実現に向けてどのように寄与するのかを示しました。これにより、幅広い関係者の皆様との対話を深め、共により良い未来の創造を目指します。

具体的な目標	目標が達成できない場合のリスク	SDG s
・ NPS20 以上	・ 保護者満足度の低下による、評判低下のリスク	3 すべての人に健康と福祉を
・ 週に1回	・ 学園での学びや魅力が正確に伝わらないリスク	16 平和と公正をすべての人に
・ 翌日の園児登園前までに初期対応 100%	・ 園内での重大なケガ・事故が発生し、評判を落とすリスク	
・ 年間各 25 回	・ 経験豊富な担当教職員が確保できないリスク	
・ 魅力ある教育のプログラムの年 1 回以上の実施 ・ IT 機器を活用できる保育室の割合 60%以上	・ 特徴のある外部講師が確保できないリスク ・ 設備投資の費用が増大するリスク	4 質の高い教育をみんなに
・ 月 1 回以上	・ 定期的実施しないと未就園児からの認知されないリスク	5 ジェンダー平等を實現しよう
・ 複数の業務関連免許及び資格の保有率 80% ・ 在職年数 10 年以上と外部研修への参加率 90%	・ 継続的に教職員の能力開発に投資をしないとよいプログラムとカリキュラムが提供できないリスク	8 働きがいも経済成長も
・ 園への共感、従業員エンゲージメントの指数 70%以上	・ 理念等の浸透が不十分だと、教育・保育のプログラムとカリキュラムに反映されないリスク	
・ 教職員満足度 80%	・ 職務に対してコミットできないことによるモチベーションの低下や退職率が高まるリスク	
・ 2号児の充足率 90%以上 ・ 年間の地域事業参加人数 50 名以上	・ 地域社会や市内の教育・保育の課題の解決に向けた支援・貢献が不足することにより、地域コミュニティが形成できなくなるリスク	4 質の高い教育をみんなに
・ 3歳児から他の保育園児が当園に転園できる提携数 1 園 ・ カウンセラーを派遣してもらった回数 年間 15 回	・ 学年ごとの園児数が減ることで、集団生活や友達関係の学びが不十分となるリスク ・ 保護者への支援が不足することで、家庭・外部の専門機関・園との連携がうまくとれず、園児の発達状況を正確に把握できないリスク	11 住み続けられるまちづくりを
・ 協議会・研修会への参加回数 年 3 回以上	・ 研修が保育時間と重なるため、保育への教職員の配置が手薄になるリスク	17 パートナーシップで目標を達成しよう
・ 希望者からの受け入れ人数 5 名以上 ・ 公共施設等の外部施設の訪問・利用回数 3 回以上	・ 将来の教職員との接点が減少するリスク ・ 多様な人や園外の施設との関わりが少ないことで学びの幅が狭まるリスク	
・ 在園児の預かり保育料収入、2歳児からの収入、小学生からの収入と資産運用による収入を前年度比 +5%以上	・ 教育活動における主要な収入に依存するリスク	4 質の高い教育をみんなに
・ 未就園児クラス 25 名 ・ 満3歳児クラスの充足率 80%以上	・ 未就園児クラスの人数の減少により、満3歳以上の入園者が増えないことによる減収リスク ・ 減収により、担任以外の教職員が余剰となるリスク	

### 3. 学園の運営基盤

3.1	設備資本	17
3.2	人的資本	19
3.3	知的資本	21
3.4	自然資本	23
3.5	社会・関係資本	24
3.6	財務資本	25
3.7	ガバナンス	26
3.8	コンプライアンス	27

# 設備資本



設備資本とは、建物や設備など、保育・教育サービスを提供するために園が保有する有形資産のことを指します。これらの資産は、教育環境の質を向上させ、持続可能な運営を支える重要な要素です。

## 充実した教育環境の整備

本園では、園児が充実した教育・保育を受けられるよう、さまざまな教育環境を整えています。園内には保育室と遊戯室（ホール）のほか、多目的室やシャワー室も完備され、幅広い用途に対応できる充実した設備を備えています。また、園舎と園庭は定員 240 名で設計されており、園児たちがのびのびと身体を動かせる環境を提供しています。園庭には大型遊具が設置されており、友達と遊びながら運動機能の発達を促します。遊具の下には安全マットを敷き、安全・安心な環境整備にも努めています。さらに、絵本や紙芝居も充実しており、遊戯室（ホール）と多目的室を中心に合計約 1200 冊が配置されています。これらの本は在園児に貸し出しも行っており、子どもたちが楽しみながら読書に親しむ環境も整えています。



### 施設の概要

敷地	敷地全体	2765.37 m <sup>2</sup>
	園庭	1376.37 m <sup>2</sup>
幼稚園舎	園舎	1031.50 m <sup>2</sup>

### 主な設備

園舎外	大型遊具	1 個
	防災倉庫	2 個
	バス	2 台

### 主な設備

園舎内	保育室	7 室
	遊戯室(ホール)	1 室
	職員室	1 室
	多目的室	1 室
	浴槽・シャワー室	1 室
	絵本・紙芝居	1200 冊程度
	AED	1 個
	防災頭巾	200 個

## 絵本を通じて、言語能力や社会性を育み、先生や保護者とのコミュニケーションを促します

### ◆言語能力の向上

物語を通じて新しい言葉を学び、表現力を高めることができます。

### ◆社会性の発達

絵本には友情、協力、思いやりなどのテーマが多く含まれています。これらを通じて子どもたちは、社会的なスキルや感情の理解を深めることができます。当園の保育目標「がまんと思いやり」のこころも育みます。

### ◆先生や保護者とのコミュニケーション

絵本を一緒に読むことで、先生や保護者との絆が深まります。4 歳児と 5 歳児には絵本の貸出を行い、保護者とのコミュニケーションを促進します。

## 広い園庭を通じて、基礎体力の向上、子どもの興味・関心を広げます

子どもたちは、広い園庭で楽しく遊んでいます。サッカー、ドッジボール、バトミントンなど、操作する運動スキル（打つ・投げる・蹴る・まわす）で、手足などの身体で道具や物を使って操作し、それぞれの独立した動きを一つにまとめて行う「協応性」を育みます。

また、大型遊具では、以下の 3 つの運動スキルを伸ばすことができます。

- ◆移動する運動スキル（歩く・登る・くぐる）：空間認知能力や全身の筋力を育みます。
- ◆バランスをとる運動スキル（立つ・渡る・乗る）：平衡感覚を養います。
- ◆その場での運動スキル（ぶら下がる・押す・引く）：筋力や持久力を高めます。

## 災害に強い環境づくり

本園では、災害に備えた安全な環境づくりに取り組んでいます。園舎は 2010 年に耐震診断を行い、2011 年に補強工事を完了しました。また、園内には浴槽やシャワー室を備えており、災害時にも使用できるように設計されています。防災倉庫には水や食料などの備蓄品を確保し、全園児分の防災頭巾も各保育室に完備しています。

園の向かい側には東京都水道局の応急給水拠点もあり、災害時には園児や地域の方々に物資を提供し、場所を提供できるように考えています。また、月に一度の避難訓練を実施し、AED（自動体外式除細動器）や緊急地震速報受信装置を設置しており、園全体で災害に強い環境づくりを進めています。



## 今後の展開

### 園舎の建て替え

園舎の一部建て替えを予定しています。

新たな設備導入を通して、より本園の理念に沿った教育・保育の提供に努めます。また地域の皆様とのつながりを深めるための施設活用にも取り組みます。

### 多目的室の活用

これまで以上に施設を有効活用するため、未就園児クラス、ランチルーム、教職員の休憩室や学童、預かり保育等での利用を想定しています。動きやすく、コミュニケーションのとりやすい職場を目指します。

### IT 設備の導入

全クラスでインターネットが利用できる環境を整え、教育に活用できる機器を導入予定です。時代に即したデジタル教育を実現します。

### 給食設備の導入

新園舎では給食設備の導入により、外部からのお弁当配達から自園給食に切り替える予定です。環境教育・食育の発展に力をいれていきます。

# 人的資本



人的資本とは、人々の能力、経験及びイノベーションへの意欲のことを指します。幼稚園における人的資本は教職員一人ひとりの成長や学びを通じて強化され、組織の持続的な発展を支える重要な資産です。

## これまでの取り組み

幼稚園教育において最も重要なことは、教育の質を高めることです。そのためには、教職員の確保と人材育成は必要不可欠です。人材育成においては、日常の業務では学べない知識を習得するために、幅広いテーマの園内研修及び外部研修を受けました。新規教職員の採用に関連した園内研修には、2023年度は教職員総数17人のうち2人が研修に参加しています。外部研修の内容には、コンプライアンス・倫理に関する研修内容も含まれ、教育現場における信頼性と透明性の確保を重要視しています。教職員は長期休みを中心に、年間31回にわたる外部研修へ、育休中の教職員を除いた全教職員が参加しました。このような研修を通じて、教職員全体のスキル向上を図り、教育の質の向上に努めています。

認定こども園への移行を見据え、2019年以前から保育士資格を持たない幼稚園教諭に対し資格取得を支援してきました。在園児数の減少に対し、加配が必要な園児数が増えているため、各学年に基準以上の教諭を配置しています。さらに、リトミック資格を持つ教諭を増やし、カリキュラムに反映させるなど、質の高い教育を提供しています。

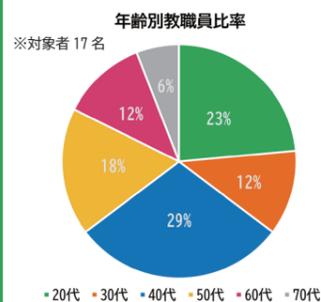
育休・産休取得率

100%

有給休暇取得率

81.9%

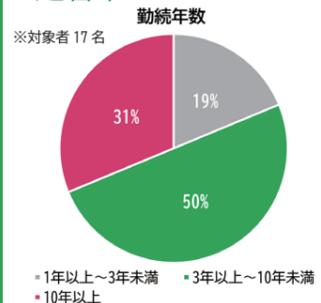
## 年齢比率



当園の正規教職員は、幅広い年齢層で構成されており、多様な経験と視点を持つ職員が揃っています。

この年齢比率は、若手教職員による新しい視点や柔軟な対応力と、ベテラン教職員の豊富な経験をバランス良く活かしながら、園児に対する質の高い教育を提供する基盤となっています。また、年齢層が幅広いことで、職員間の相互学習や知識共有が促進され、園全体の成長につながっています。

## 定着率



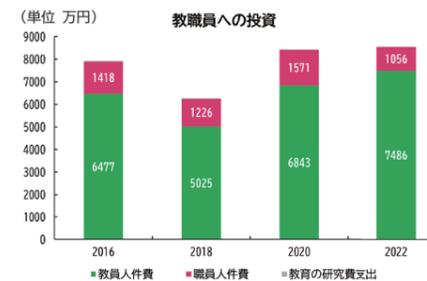
教育の質の向上には、経験豊富な教職員の確保と、研修やスキル強化による人的資本の維持が不可欠です。その一環として、定着率の動向を注視しています。

当園の教職員は長期的な定着傾向が見られ、豊富な経験と専門知識を有する教職員が多く在籍しています。特に勤務年数が10年以上の教職員が全体の約40%を占め、経験豊かな人材が幼稚園運営に大きく貢献しています。

## 採用コスト

2024年度に向けた新規教職員採用に関連した総コストは、約111万円でした。この費用には、教職員の採用活動全般にかかるもので、面接・選考プロセスに要する費用や、新任教職員の研修に伴うコストが含まれています。

## 教職員への投資



幼稚園における教職員への投資は、質の高い教育環境を維持するための重要な投資です。人件費に加え、スキルアップのための研修費や教育プログラムへの参加費も含まれます。これらの支出は、教職員のモチベーション向上や専門性の強化に寄与し、結果として園全体の教育の質向上に繋がります。



## 今後の展開

3年後の理想の人的資本として、特定の人にしかできない仕事をなくし、複数の教職員が同じ業務をこなすことで安定的な園の運営を実現します。現在、平均勤続年数は11年と高い水準にありますが、さらに勤続年数10年以上の教職員を増やすことで、経験と知識をより一層共有しやすい環境を整え、職員の定着率を向上させていきます。これらの取り組みを通じて、質の高い教育を安定的に提供できる組織の構築を目指します。

### デジタル人材の採用と教職員のITスキルの向上

デジタル人材の採用と在職している教職員のITスキル向上により、業務の効率化に向けて情報発信を強化します。これにより、新入園児の保護者に対する魅力的なアピールが可能になり、安定した入園児確保が期待できます。

また、新規教職員向けの情報発信を通じて、優秀な人材を採用する体制を整えています。これらの施策を通じて、デジタル化を推進し、園の持続的な発展を目指します。

### 定着率の向上に向けた労務管理の徹底、キャリア形成の支援

定着率向上のため、労務管理の徹底とキャリア形成の支援を行います。働き方の選択肢を増やし、ワークライフ・バランスの実現を図るとともに、基準以上の教職員配置で一人あたりの仕事量をさらに分散していきます。そして、教職員が休んでも支障のない体制をさらに整えていきます。

また、理念・価値観に共感する人材を採用し、在職者にも研修で理念を浸透させます。さらに、教職員アンケートを活用し、心理的安全性の高い組織風土の構築に努めます。

# 知的資本



知的資本は、組織的な知識ベースの無形資産です。百草台幼稚園では、教職員が日々の業務を通じて得た経験やノウハウが、子どもの成長や発達に大きく貢献しています。

## 教育カリキュラムとプログラム

子どもの発達段階に応じた適切な教育カリキュラムや、体験学習、遊びを取り入れたプログラムは、幼稚園の教育の質を高めるために不可欠です。また、これらのプログラムは幼稚園の独自性を表現し、保護者からの信頼を得る重要な要素です。

### 遊び

大好きな遊びを通して子どもたちは、いろいろな事を学んでいきます。伸び伸びと明るくやさしい子を育てるために、私たちは「遊び」を保育の大切な柱としています。



### 体験学習

園外保育や自然学習はカリキュラムに組み込まれ、子供たちの生の体験を通して多くの事を学び、豊かな心を身につけます。

## 保育・教育のノウハウと経験

未就園児クラスへの入会から卒業以降の10年間にわたる一貫した教育・保育プログラムを提供しており、長年にわたって蓄積されたノウハウと豊富な経験が強みとなっています。

### 友達との出会い

一人遊びから次第に友だちとの関係が出来ます。人とのコミュニケーション力を高め、友達や先生との関わりの幅をより広めて社会性の育ち合う場を作ります。



### 学童保育

現在はまだ夏休み中の限られた日数ではありますが、卒業生向けの学童保育を提供しています。長期間にわたる教育と保育のサポートを行い、卒業生の成長を継続的に支援しています。

## マネジメントと運営ノウハウ

財務管理の強化が、教職員の増加と柔軟な働き方を実現させ、園長のリーダーシップのもと質の高い教育・保育の提供につなげる好循環を生み出します。

### 財務管理の強化

少子化の時代に直面しながらも、当園では戦略的な財務管理を通じて減少する園児数による収入減を補填しています。これにより、収支の安定化が図られ、財務基盤を強化することができました。

### 人材管理の強化

充実した人材配置により、幅広い教育・保育プログラムや子育て支援を提供できる体制を拡充させてきました。教職員に対しては休憩や残業の労務管理と、希望に沿った柔軟な働き方を両立しています。

					文字と数
					体験学習
				体育指導	
			友達との出会い	行事への参加	
		遊び	リズム	絵本	
1・2歳児 親子クラス	2歳児クラス	満3歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス

## 今後の展開

1・2歳児親子クラスで、教職員との交流や園舎・園庭での遊び、カリキュラム体験を通じて、次年度の満3歳児クラスや3歳児クラスへの入園を促進します。また環境に関連した教育活動などを蓄積し、カリキュラムに取り入れることでさらに幅広い教育を行っていきます。これまでのカリキュラムや行事の活動記録は共有ファイルに保存され、全教職員がアクセスできる体制を整えています。



# 自然資本



自然資本とは、園が利用する環境資源およびそのプロセスを指します。園と隣接する自然公園や団地内の広場などの自然豊かな環境の中で、子どもたちは自然と触れ合う中で、様々なことを学んでいきます。

## 自然資本を活用した教育・保育



### 園周辺の自然

近所の公園への散歩を通して、様々な生き物や植物と触れ合う機会を設けています。自然公園では、池の生き物や花の観察、虫取り、どんぐり拾いなど、1年を通じて活動の場となっています。

### さつまいものツルを使ったリース作り

本園では、毎年地域の畑でじゃがいも掘り、さつまいも掘りを行っています。収穫後の取り組みの一例として、年度によっては収穫したさつまいものツルを使用してクリスマスリースを作成し、家庭へのプレゼントとして喜ばれています。また、廃棄されるはずの資源を有効活用することで、ゴミの削減にも貢献しています。



### 花壇と樹木での栽培

保育の特色である体験学習の一環として、園にある花壇を活用し、野菜や稲の成長過程を観察しています。

園児は新鮮な野菜の感触を手で感じ、大きさや長さを比べたり、収穫した数を記録したりすることで学びを深めています。最後に園内で調理し、嫌いな野菜が食べられるようになる子どももいます。



### 日野市との連携と環境教育

本園では、日野市との連携で「ごみ減量啓発戦士 ごみゼロマンレッド&ごみゼロマンヴェルディ」による出前授業を実施しています。子どもたちは、ごみの分別の重要性や、3つの約束を通じたごみ削減の方法について学び、食べ物を大切にす意欲やごみの分別への意識が高まっています。

また、「エコアラ・エコクマ」による環境学習では、水や電気、食べ物の大切さを学びます。本授業は、園児が帰宅後に親子で環境について話し合うきっかけとなり、保護者の皆様のエコ意識も高めるなど、高い評価をいただいています。これらの学習で学んだことをより一層活かせるよう、園内でも園児へ節水を促すなどの取り組みを行っています。

詳しくはこちら→



## 今後の展開

園舎の一部建て替えに伴い、新園舎に太陽光発電設備を設置する予定です。これにより、園内での電力供給の一部をクリーンエネルギーでまかない、環境負荷の軽減に貢献します。新たに設置予定の給食設備では、調理時に発生する生ごみを堆肥化し、園内の花壇の肥料として再利用することも考えています。この取り組みを通じて、ごみとエネルギーの循環を生み出し、持続可能で環境に優しい園づくりを目指しています。

# 社会・関係資本



社会・関係資本は、個々のコミュニティやステークホルダーとのネットワークを通じて形成される信頼や協力の関係であり、情報共有を通じて個別的・集合的な幸福を高めるための資産です。幼稚園は保護者や地域、行政との関係を通じて信頼が構築され、協力に基づいて教育と保育の質が支えられています。共有された価値観と信頼の上に成り立つコミュニケーションや協力体制により、子どもたちはより良い教育環境で成長し、幼稚園は地域社会に欠かせない存在として位置づけられています。

### 保護者

当園は、保護者との連携を重視し、園長が参加する年10回の父母会や、保護者主催のお祭り、祖父母の会（年1回）などを開催しています。また、各行事後に感想や意見を集めるアンケートを実施し、2023年度では月次の園だよりを除いて17回のお知らせを配布しました。園の活動を頻繁に共有しています。

これらを通じて、保護者との信頼関係を築き、協力体制を強化しています。

### 地域

当園は、地域の専門機関「エール」と連携し、必要な園児に対して発達支援や相談を提供しています。

また、2023年度には日野市からカウンセラーが11回派遣され、保護者相談や教職員へのアドバイスを行いました。こうした協力により、地域社会全体と協働して子どもたちをサポートしています。

### 他の教育機関

当園は地域の教育機関とも密接に連携しており、年に1回、園児が小学校の授業に参加して小学生との交流を図る取り組みを行っています。さらに、卒業生の小学生や中学生、大学生などのボランティア活動や実習生を積極的に受け入れ、異なる年齢の子どもたちが相互に学び合う場を提供しています。

このような活動は、地域の教育機関との強い絆を築き、相互成長を促しています。

### 卒業生

卒業生との交流も重要視しており、年に1回同期会・同窓会を開催して6~7割の卒業生が参加しています。また、卒業生の畑での収穫体験や、卒業生の子どもが当園に通う例もあります（現在2名）。

これにより、卒業後も園との関係が続き、地域全体で子どもたちの成長を見守る環境が整っています。

## 今後の展開

百草台幼稚園は地域との交流・活動を開始し、他の教育・保育施設との関係を強化することを目標としています。そのために、まず新型コロナウイルス流行前に行っていた老人ホームとの交流など、園児と高齢者などが共に楽しめるイベントを再開し、お互いにプラスとなる関係性を築いていけることを目指しています。また、地域内の教育・保育施設が統廃合や定員縮小を行った際に、当園が園児の受け入れ先として認識されることを目指します。さらに、0~2歳児を預かる小規模保育園の3歳児の進級先として積極的に立候補し、地域の教育ネットワークを強化します。これらの取り組みにより地域との連携を深め、当園が地域において信頼される存在として位置づけられるよう努めます。



# 財務資本



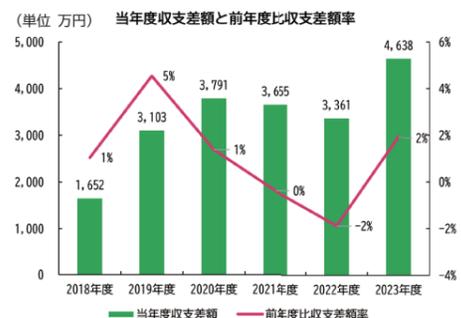
財務資本とは、園が日々の運営や教育活動を行うために必要となる資金のことです。この資金は、施設の維持管理や教材の購入、職員の給与支払い、将来の園舎建替えなど、幼稚園の安定をした運営を維持するために重要な要素となります。

## 長期的に地域とともにあるべき園であり続けるために

本園ではこれまでの沿革を通じて、設立以来堅実な園運営を努めてきました。毎年、十分な当年度収支差額を確保できていたため、2019年10月からスタートした幼児教育の無償化以前では、保護者から徴収させていただく月額保育料や入園料などは、市内の私立幼稚園10園のうち下から常に1番目もしくは2番目に少ない額に設定していました。また、資産運用に関しては積極的には行わず、定期預金に比重を置いてきました。しかし、今後を見据えて2019年度より幼稚園から認定こども園に移行しました。満3歳児と2号児を受け入れ、公定価格による収入へと切り替えたことにより、収支を改善させております。

### ◆これまでの財務状況

本園では2019年度より認定こども園に移行したことで、事業規模が変わり続けています。当年度収支差額を前年度比-5%以内にする目標については、これまで達成することができています。2023年度では前年比+2%かつ収支差額が大きくなり、収益が生じることで安定した経営を行うことができています。



## 今後の展開

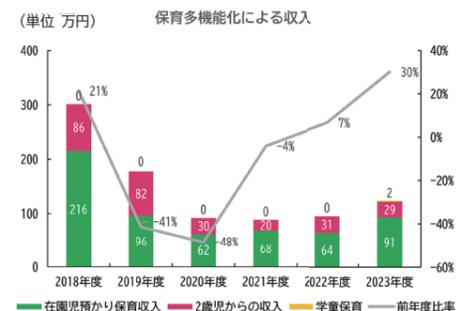
### ◆少子化時代において、前年度と変わらない強固な財務基盤を維持していくために

現在、純資産額と自己資本比率はともに年々増えており、2023年度では前年度比で純資産額が約6%増加し、強固な財務基盤を築くことができています。これを維持していくためにも満3歳児および2号児の充足率を高めていきたいと考えています。そのために、当園の教育・保育、教職員や在園児との交流を通じて魅力を感じてもらうことで、2歳児の親子クラスの人数増加と退会率低下を実現させていくことを目指しています。



### ◆収入源の多角化を計るために

当園では現在、収入源の多角化も目指しています。特に保育の多機能化の結果として、在園児の預かり保育料や2歳児からの収入をより増加させるほか、2023年度より始めた学童保育をより一層拡大していくことで、小学生からの収益を得られるよう目指しています。2023年度と前年度比率を比べると約27%の向上となったことから、今後新たな収入源となるよう目指します。



# ガバナンス・コンプライアンス

## ガバナンス（適切な学園運営のための内部管理体制）とコンプライアンス（法令・園内規則・社会規範の遵守）の好循環を目指して

ガバナンスを強化することで、教職員の業務に対する監視機能が働き、適切なコンプライアンスの維持につながります。また、コンプライアンスの強化は、教職員の法令・規則等を守る意識を高め、健全な運営を目指すガバナンスに効果的です。



## ガバナンス（適切な学園運営のための内部管理体制）

### ◆基本的な取り組み方針

学校法人は、高い公共性を有する学校の運営主体として、社会から信頼されるべく適正な運営と透明性の確保が求められ、これからも社会的責任を十分に果たすことができるような存在であり続けることが求められています。幅広い視点から、活発な議論ができる組織体制を推進していきます。

### ◆組織体制



### ◆理事会

私立学校法に基づき、寄附行為において明確な意思決定機関として位置付けられており、全ての理事が学校法人の運営に責任を持って参画し、意思決定ができるよう年2～3回開催されています。理事会は、社会経験が豊富で、長期にわたり学園の運営に携わっている方を中心に構成されています。理事長は、理事会で決まった内容を実行する役割を果たします。

### ◆評議員会

学校法人の運営に関する重要事項についての諮問機関であり、年に2～3回開催されています。法人業務、財産状況、理事の業務執行について、本園が提供している教育・保育を理解したうえで意見を述べて頂ける方（卒業生、旧職員、同窓会役員）を中心に、評議員として選出しています。

### ◆監事

法人業務、財産状況、理事の業務執行を監査する役割を担っています。専門的な知見を活かして頂ける方（大学教授、税理士）に、就任して頂いております。

### ◆その他

- \* 計算書類に関しては毎年度、公認会計士による監査を受けております。
- \* 平成30年度に、東京都から補助金に関する監査がありました。いずれも指摘は受けておりません。

# ガバナンス・コンプライアンス

## コンプライアンス（法令・園内規則・社会規範の遵守）

### ◆基本的な取り組み方針

本学園が定めた4つのビジョン（長期的に目指す姿）の実現に向けて、その妨げとなりうる要因をコンプライアンスの観点から検討しました。地域に開かれた学園として、幅広い関係者からの信頼が得られるよう、重点的に取り組んでいく内容は以下の通りです。

### ◆法令・園内規則の遵守

法令・社内規則・社会規範（教職員として信頼される行い）の遵守を徹底していきます。積極的に参加した研修会で学んだことを適切に園内規則に反映させ、園全体で情報共有いたします。

### ◆いじめや虐待などを防止し、子どもと保護者が安心できる環境の整備

子どもの人権擁護の観点から、より良い保育に向けてすべての教職員が、日々の保育や子どもとのかかわりを振り返ります。「望ましくない」と考えられるかかわりについては、改善策を講じていきます。

### ◆ケガや事故時の説明責任

ケガや事故が起こった場合は、迅速に処置及び連絡します。そして、把握している事実を偽ることなく関係者に説明します。大きなケガの場合は、報告書を作成し対面で説明しています。

### ◆個人情報や機密情報の管理

職務上知り得た個人情報や機密情報は、公知の情報とは明確に区別して管理します。入職する教職員と個人情報等に関する誓約書を交わし、重要な書類は厳重に保管しております。

### ◆関係者からの意見への適切な対応

関係者からのご意見・ご指摘に耳を傾け、誠実に対処します。また、必要に応じて予防措置を行います。

### ◆多様性と男女平等参画

職場におけるハラスメント・差別等を排除し、性別・年齢に捉われることなく平等に業務に従事できる職場環境をめざします。

### ◆適切な情報開示

幅広い関係者に対して、経営状況および教育活動についての正しい評価や理解を得るために、制度上の開示ルールに則った情報開示に努めます。

## 4. 百草台幼稚園について

4.1	園情報	29
4.2	あしがき	30



# 園情報

## 園の概要

・学校法人名	学校法人 百草台学園
・学校法人設立	1970年2月27日
・学校	認定こども園 百草台幼稚園
・許可年月	2019年3月26日
・所在地	東京都日野市百草 999 百草団地 2-5-4
・従業員数	正規教職員 17名 非正規教職員 7名 (2024.8.1 現在)
・事業内容	教育 及び 保育
・連絡先	042-591-1729

## リンク

ホームページのリンク <https://www.mogusadai.ed.jp/>



# あしがき

「もぐさレポート 統合報告書 2024」を最後までご覧いただき、誠にありがとうございます。

本統合報告書は学園内外すべてのステークホルダーの皆様へ、当園の目に見えない資産（無形資産）を知っていただきたい、また学園の組織改革の一助にしたいという強い思いから作成を開始しました。

今まで学園が提供する詳細な内容や学園の持つ財務情報などを開示していませんでした。また無形資産を明示していませんでした。そのため、「百草台幼稚園」を皆様に真の意味でお伝えできていなかったのではないかと思います。本統合報告書によって、当園の価値や強みを深く認識していただくだけでなく、さらに安心し、信頼していただける学園になることができるのではないかと考えております。

事業内容や財務・非財務といった情報に加え、今後の展開を多く明記することによって、現在と将来の学園の全体像をはっきりと映し出したものとなっております。今後の当園の成長、価値向上、そして持続可能な学園の運営のために統合報告書は有益であると判断し、本統合報告書を作成しました。また、統合報告書による情報開示は現代において重要視されているにもかかわらず、幼稚園や保育園といった非営利組織での発行例は非常に少ないです。そのため、本統合報告書が他園の手本となりましたら幸いです。

## 編集者

専修大学 経営学部 岩田弘尚ゼミナール 15期生  
杉野響 松本潤佳 佐藤妃音 山口梨乃

私たちは、「地方創生のための管理会計」というテーマのもと、ゼミナール活動を行っています。百草台幼稚園が保護者の皆様や子どもたちから選ばれる幼稚園であり続けることは、日野市や百草周辺地域の活性化、つまり地方創生へと繋がります。

今回の統合報告書の共同制作は、こうした地方創生の観点から重要な意義があること、また、私たち学生の研究の場としても活用させていただきました。

この活動及び統合報告書を通じて、百草台幼稚園のさらなる発展と地域への貢献ができていましたら幸いです。

## 監修

専修大学 経営学部 教授 岩田弘尚

## 発行日

2025年3月

## 発行者・お問い合わせ先

学校法人 百草台学園 認定こども園 百草台幼稚園  
理事長 小宮山 直樹  
TEL 042-591-1729